

027 塚田茂博家文書と目録作成について

1 須坂市福島町の塚田家は、江戸末期の文久元年には、松代藩領福島村の名主音八として登場する村の重立であった。明治期にも「音八」、昭和期に入っては「仁之助」の名で登場する。

福島村は、慶長 16 (1611) 年以降北国街道の宿駅として、また、仁礼宿を通る大笹街道の起点として、重要な位置をしめている。千曲川べりに立地することもあるが、度重なる水損に見舞われて重要史料が散逸してきている現状を認めないわけにはいかない。

そのように散逸して数少ない福島村関係史料のなかにあつて、本塚田家文書は、須坂市福島町の歴史を解き明かしていく史料として、なくてはならない貴重な現存史料である。

2 本文書には、名主家文書等福島村関係史料のほか、北国街道宿駅史料、千曲川通船関係史料、千曲川西岸、向かい側に位置する福島新村(明治 19 年屋島村)との関係を示す史料も保存されている。さらには、市川・鮎川落合水除け場所をめぐる中島村との係争史料(明治 11 年)もみられる。

これらの史料を調査・研究していくことにより、近世以降の福島村の姿を復元することが可能となるであろう。

どの史料をとってみても、先人の生きざまを今に伝える貴重なものとなっている。長期間にわたって、本史料を大切に保存し、保管してこられた塚田家の方々の労を多としたい。

3 ここでは、それらの史料を、『塚田茂博家文書目録』として作成する。『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「027」(27 番目)に位置付け、史料番号は「027 - A - 1」から開始して整理ラベルを貼付した。

史料内容の特徴を生かして、つぎのように分類して史料目録を作成した。総史料番号(枝番号含む)は 1117 点、総史料点数は 1245 点にのぼっている。

分類項目	史料番号	史料点数	箱数
A 江戸期	386	414	2
B 明治期 I	300	361	2
C 明治期 II	316	352	3
D 大正昭和期	115	118	1
総計	1117	1245	8

4 本史料目録が、福島町区民をはじめとする須坂市民ほか多くの地域史研究者によって活用されることを願ってやまない。とともに、当塚田家文書の史料調査・研究を深めて、新たな福島町区民の歴史を発掘し、歴史の中で血みどろになって生きてきた誇り高い福島村(町)区民の歴史を叙述・編さんされて、子々孫々に伝えられることを期待したい。

5 史料目録の作成にあたっては、史料の現状・存在形態を尊重しつつ史料閲覧者の便宜も考慮して、つぎのようにした。

(1) 史料名は原則として史料中に記載された表題を記載したが、無表題史料などには、

つぎのように（ ）をもちいて仮表題を作成し掲げた。

（宿助郷組替え勤めの達） （大洪水の絵図）

- (2) 「記」、「覚」のみで内容未記載の史料については、つぎのように（ ）内に内容説明を記載したものもある。

記（戊辰戦争賄い金御下げ願い） 覚（土地借用書類）

- (3) 請取りなど切手類は、便宜的に括って整理したものもある。その場合は、つぎのように一枚目の史料名を記し、他の史料については「外○点」などと略記した。備考欄には「便宜括り」と記載しておいた。

記（上納金領収書）、外 5 点 地券分裂願、外 9 点

- (4) 史料形態については、つぎのように略記した。

横（横帳）、 横半（横半帳）、 縦（縦帳）、 紙（一紙）、
封（封書）、 冊（冊子）、 綴、括、など

6 本史料目録は、塚田茂博家のご理解・ご協力を得て、須坂市誌編さん室の下記専門員が分担して作成した。

勝山一男 小林 裕 丸山文雄 井上光由
小林謙三 竹内正勝 涌井二夫

（編さん担当：青木廣安・丸山文雄）

2010 年 5 月 31 日

須坂市誌編さん室